

第3回孤独・孤立対策推進会議 説明資料

令和4年4月26日

内閣官房孤独・孤立対策担当室

1．最近の孤独・孤立対策の取組について

【これまでの実績】

- 2月8日(火) 大臣会見にてキャンペーン開始を公表。「わたしはひとりじゃない体験談」募集開始。
- 2月21日(火) 第1回「ひとりじゃないカフェ」
野田大臣(ホスト)がゲストを迎え、孤独の体験について語り合うオンライン番組。
テーマ: 誰にでもある孤独 【URL】<https://youtu.be/eIPGusNIOJk> 【QRコード】
ゲスト: 今井紀明氏(認定NPO法人D×P代表)、橘ジュン氏(NPO法人BONDプロジェクト代表)
生配信視聴 最大138人 翌22日までの再生回数1526回 アーカイブ再生回数 約1000回(4/25現在)
- 2月26日(土) ユース・ラウンド・テーブル
高校生から30歳までの若者19名が参加(オンライン)。「孤独感や不安感を始めとする自分の悩みなどについて、話しやすい環境をつくるには、どうすればよいか」について議論。内閣府から6月ごろ公表予定。
- 2月27日(日) 政府広報の活用(政府広報ラジオ(60秒))
- 3月11日(金)～ 各府省の協力によりツイッターで相談窓口・支援策について連日情報発信
- 3月18日(金) HPにおいて「わたしはひとりじゃない体験談」公表。公表体験談数:18(今後、追加予定)
- 3月25日(金) 野田大臣メッセージ動画をHPで公開
- 4月21日(木) 第2回「ひとりじゃないカフェ」
内閣官房・文部科学省・防衛省共同キャンペーン企画として実施(文部科学大臣、防衛大臣のメッセージ動画を紹介)。
テーマ: 誰にでもある孤独(アスリート編) 【URL】<https://youtu.be/EQYXfLIKj3w> 【QRコード】
ゲスト: 室伏広治氏(スポーツ庁長官)
濱田尚里氏(東京オリンピック柔道日本代表)、乙黒圭祐氏(東京オリンピックレスリング日本代表) ※自衛隊体育学校所属
再生回数 約800回(4/25現在)

【今後の取組】

- 5月 インターネット広告(Yahooバナー広告)を実施予定(5月2日～8日掲載)
- 5月 孤独・孤立に関する駐日大使会合(仮称)開催 ※外務省との共同開催
- 6月 第3回「ひとりじゃないカフェ」 ※実態把握の全国調査結果等を参考にテーマを検討。
- キャンペーンに関する周知広報等について、各府省庁との連携を推進。

2. 孤独・孤立の実態把握に関する全国調査 について

孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和3年）

調査結果のポイント

内閣官房孤独・孤立対策担当室

調査の背景

- 長引くコロナ禍の影響により、孤独・孤立の問題が社会問題として一層深刻化・顕在化する中、令和3年2月より、孤独・孤立対策担当大臣が司令塔となり、政府一体となって孤独・孤立対策を推進（令和3年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定）
- 施策の推進に当たり、孤独・孤立の実態を的確に把握するため、令和3年12月に政府初となる孤独・孤立の実態把握に関する全国調査を実施（調査は統計法（平成19年法律第53号）に基づく一般統計調査として実施）

調査の実施概要

正式名称	人々のつながりに関する基礎調査
調査目的	我が国における孤独・孤立の実態を把握し、各府省における関連行政諸施策の基礎資料を得ること
調査対象	全国の満16歳以上の個人：2万人（無作為抽出による）
調査方法	内閣官房から調査対象者あてに調査書類を郵送。調査対象者はオンライン又は郵送により回答（※調査は株式会社サーベイリサーチセンターに委託して実施）
調査期日	令和3年12月1日（調査への回答期限：令和4年1月21日）
調査事項	孤独や孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等（全27問）
回答数	調査書類の配布数：20000件 有効回答数：11867件（有効回答率59.3%）
結果公表	令和4年4月8日※

※調査結果は内閣官房孤独・孤立対策担当室WEBサイト（https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodoku_koritsu_taisaku/index.html）及び政府統計ポータルサイト（<https://www.e-stat.go.jp/>）に掲載

孤独の把握方法・孤独の状況

- 孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では2種類の設問を採用。

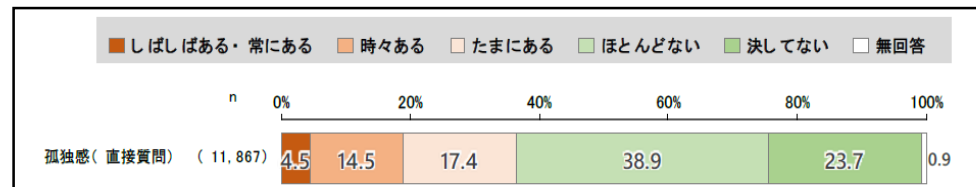
①直接質問

- 直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.5%、「時々ある」が14.5%、「たまにある」が17.4%であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は38.9%、「決してない」が23.7%であった（図1）

【図1】孤独の状況（直接質問）

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

1 決してない	4 時々ある
2 ほとんどない	5 しばしばある・常にある
3 たまにある	



（参考①）英国の状況（直接質問）

英国政府の統計調査（Community Life Survey 2020/21）では、孤独感が「しばしばある・常にある」は6%、「時々ある」が19%、「たまにある」が23%という結果が公表されている。※上記調査では小数点以下を四捨五入した整数を公表している。また、調査方法等が異なるため、比較には注意が必要である。

②間接質問

- 孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定する「UCLA孤独感尺度」に基づく質問。3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価。間接質問の結果、合計スコアが「10～12点」の人が6.3%、「7～9点」の人が37.1%であった。一方で「4～6点」の人が37.4%、「3点」の人が18.5%であった（図2）

①あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることはありませんか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

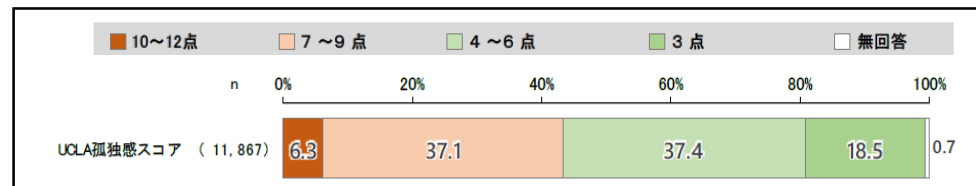
②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

【図2】孤独の状況（間接質問）



（参考②）英国の状況（間接質問）

英国政府の統計調査（Community Life Survey 2020/21）では3つの回答選択肢（3件法）を用いており、最低点3点～最高点9点の範囲で、8点又は9点の人が9%という結果が公表されている。→「参考③」参照

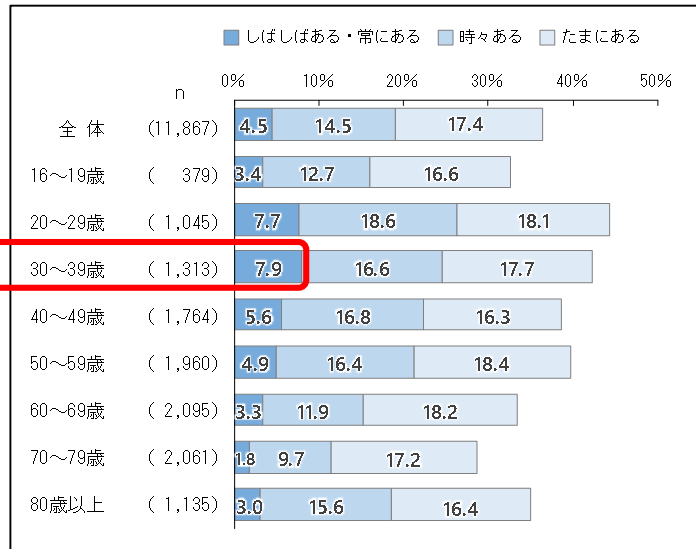
（参考③）UCLA孤独感尺度

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では上記の3項目の設問について、それぞれ4つの回答選択肢（4件法）を設定。「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」（3点）、「時々ある」（2点）、「ほとんど・決してない」（1点）の3つの回答選択肢（3件法）を設定。

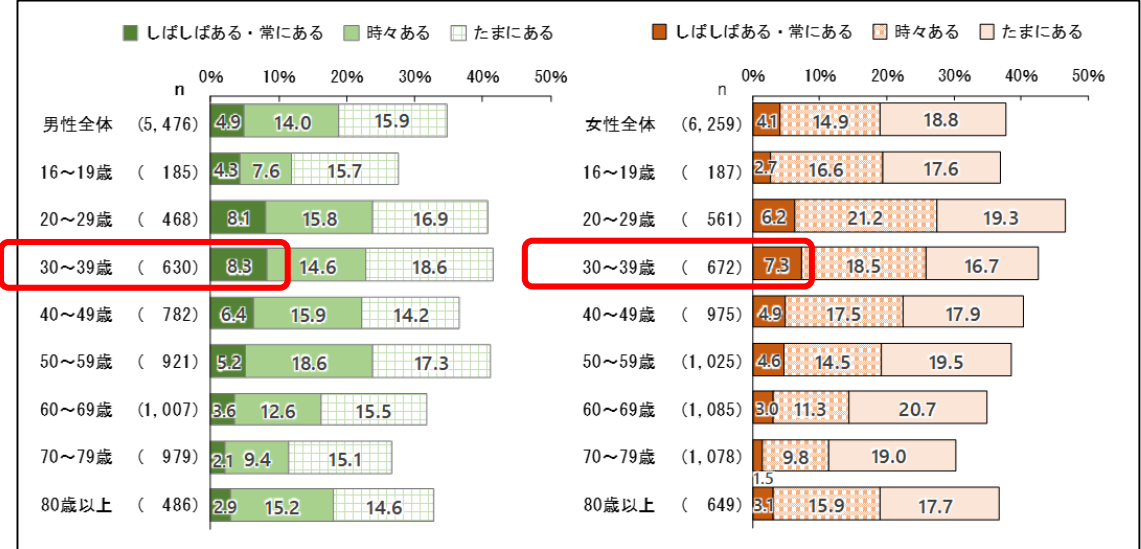
孤独の状況（孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合）

- 年齢階級別の割合は「**30歳代**」が最も高く、7.9%であった。一方、最も低いのは「70歳代」で1.8%であった（図3）
- これを男女別にみても、**男女ともに「30歳代」**が最も高く、男性が8.3%、女性が7.3%であった。その割合が最も低いのは男女ともに「70歳代」で男性が2.1%、女性が1.5%であった（図4）

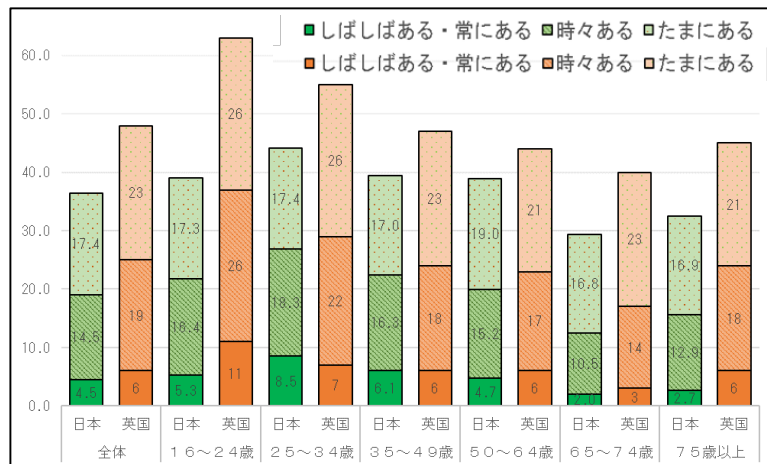
【図3】年齢階級別孤独感



【図4】男女、年齢階級別孤独感



【参考図】年齢階級別孤独感・英国との比較 (%)

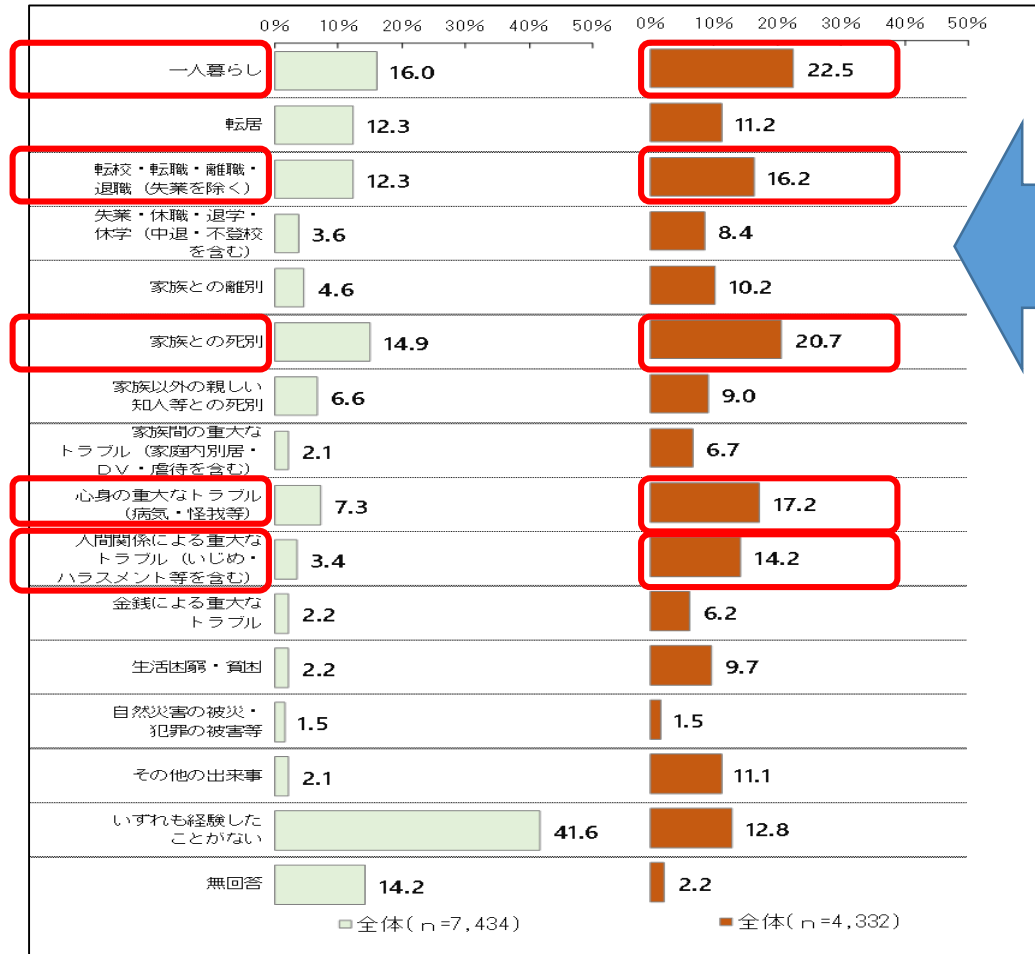


- 参考として、本調査と英国政府の統計調査（Community Life Survey 2020/21）における年齢階級別孤独感を比較。英国では16～24歳の年齢階級で孤独感が高くなっている。
※英国との比較のため、年齢階級は英国の調査に合わせている。

孤独の状況（現在の孤独感に至る前に経験した出来事）

- 孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事としては、「一人暮らし」、「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」、「家族との死別」、「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」、「人間関係による重大なトラブル（いじめ・ハラスメント等を含む）」を選択した人が多かった。

【図5】現在の孤独感に至る前に経験した出来事（複数回答）



○図5の右側のグラフは孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を集計したものである。

○図5の左側のグラフは孤独感が「決してない」、「ほとんどない」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を集計したものである。

※経験した出来事を全て選択する複数回答方式による。

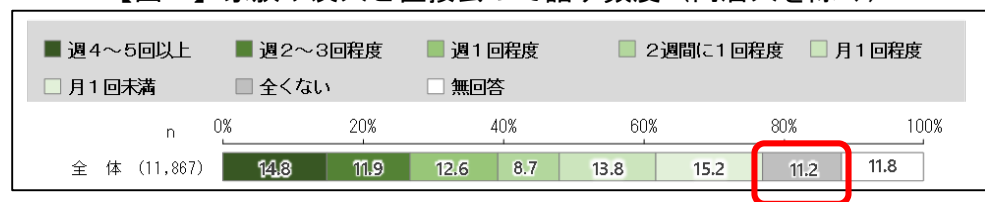
孤立の把握方法

- 孤立については、国内の先行研究などを参考に①社会的交流（家族・友人等との交流）、②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）、③社会的サポート（他者からの支援）、④社会的サポート（他者への手助け）の状況から社会的孤立の状態を把握。

孤立の状況

- ①社会的交流について、同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが全くない人の割合が11.2%であった（図6）

【図6】家族や友人と直接会って話す頻度（同居人を除く）



（参考）英国の状況（孤立）

英国政府の統計調査（Community Life Survey 2020/21）では66%の人が週1回以上、同居していない家族や友人たちと直接会って話すことがあるという結果が公表されているが、友人がいない人、無回答を除いているため、参考比較は行わない。

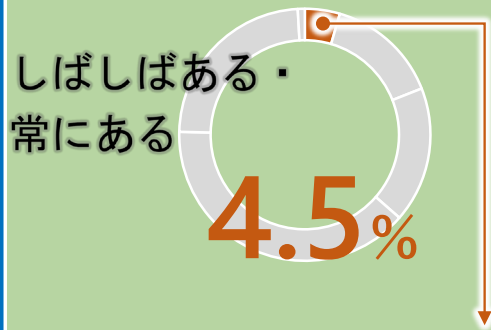
- ②社会参加について、特に参加していない人の割合が53.2%となっている。なお、参加している人については「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）」への参加を選択する割合が最も高く、29.6%であった。
- ③社会的サポート（他者からの支援）について、支援を受けていない人の割合が89.2%であった。なお、全体では、支援を受けている人の割合が4.4%であるが、80歳以上では男性で8.4%、女性で12.2%とその割合が高くなっている。
- ④社会的サポート（他者への手助け）について、「手助けをしたいと思わない・手助けを必要とする人がいるか分からない」という人の割合が4.3%、「手助けを求める人がいない」が24.8%、「自分にはできない」が10.5%であった。

今後の取組

- 調査結果を踏まえ、令和3年12月に策定した「孤独・孤立対策の重点計画」の評価・検証、見直しを検討するとともに、令和4年度においても、引き続き、孤独・孤立の実態把握に関する全国調査を実施するなど、継続的に孤独・孤立の実態把握に努める。

(参考) 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の主な属性

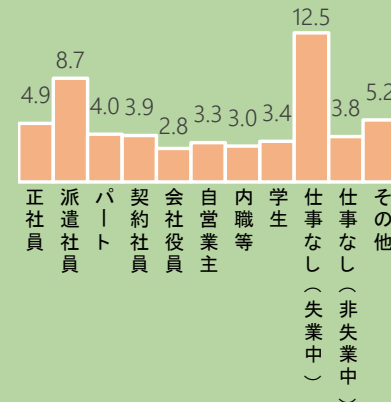
あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。



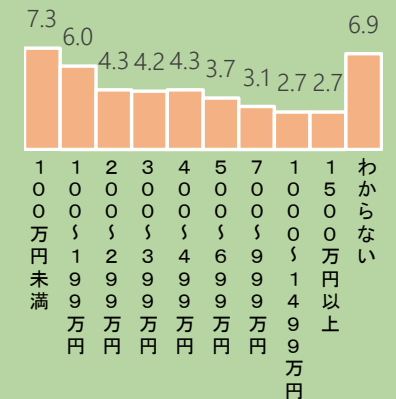
しばしばある・常にある	4.5%
時々ある	14.5%
たまにある	17.4%
ほとんどない	38.9%
決してない	23.7%
無回答	0.9%

※各グラフの単位は「%」

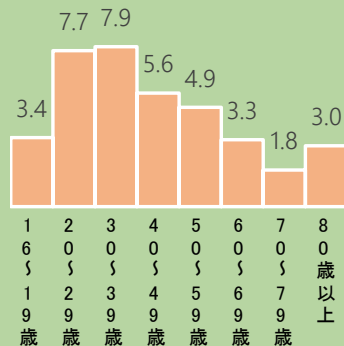
仕事



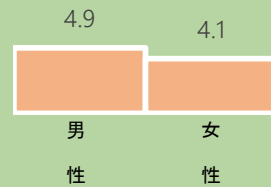
世帯年収



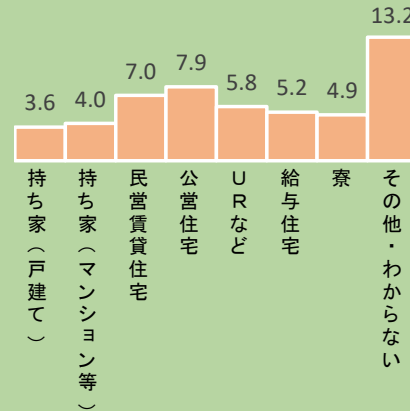
年齢



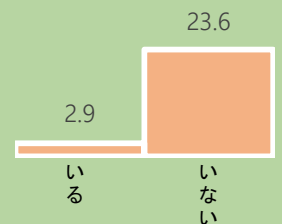
性別



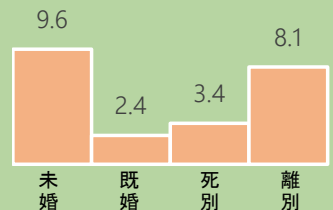
住居



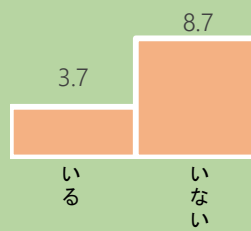
相談相手の有無



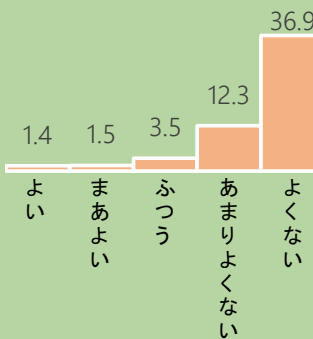
婚姻状況



同居人



健康状態(心身)



3. 孤独・孤立対策の令和5年度予算概算要求 について

○ 各府省庁において、「孤独・孤立対策の重点計画」に沿って、孤独・孤立対策関連施策の継続・拡充、新規施策、孤独・孤立対策に取り組むNPO等への支援について、令和5年度概算要求を検討するようお願いします。

孤独・孤立対策の重点計画(令和3年12月28日孤独・孤立対策推進会議決定)抄

3. 孤独・孤立対策の基本方針

(1)孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする

①孤独・孤立の実態把握

- ・孤独・孤立の実態把握、データや学術研究の蓄積、「予防」の観点から施策の在り方を検討

②支援情報が網羅されたポータルサイトの構築、タイムリーな情報発信

- ・継続的・一元的な情報発信、各種支援施策につながるワンストップの相談窓口、プッシュ型の情報発信等

③声を上げやすい環境整備

- ・「支援を求める声を上げることは良いこと」等の理解・機運を醸成し、当事者や周りの方が声を上げやすくなり支援制度を知ることができるよう、情報発信・広報及び普及啓発、教育等

(2)状況に合わせた切れ目ない相談支援につなげる

①相談支援体制の整備(電話・SNS相談の24時間対応の推進等)

- ・包括的な相談支援(各種相談支援制度等の連携)、多元的な相談支援(24時間対応の相談等)、発展的な相談支援(多様な人が関わり専門職も強みを発揮)を推進

②人材育成等の支援

- ・相談支援に当たる人材の確保・育成・資質向上、相談支援に当たる人材への支援

4. 孤独・孤立対策の施策の推進

○ 関係府省及びNPO等が連携して幅広い具体的な取組を総合的に実施。関係府省において事業の使いやすさの改善に努め、事業展開にさらなる検討を加えていく。

特に、孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動への支援については、当面、令和3年3月の緊急支援策で実施した規模・内容について、強化・拡充等を検討しつつ、各年度継続的に支援。

(3)見守り・交流の場や居場所づくりを確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う

①居場所の確保

- ・多様な各種の「居場所」づくり、「つながり」の場づくりを施策として評価し効果的に運用

②アウトリーチ型支援体制の構築

- ・当事者や家族等の意向・事情に配慮したアウトリーチ型の支援を推進

③保険者とかかりつけ医等の協働による加入者の予防健康づくりの推進等

- ・いわゆる「社会的処方」の活用、公的施設等を活用する取組や情報発信

④地域における包括的支援体制の推進

- ・地域の関係者が連携・協力し、分野横断的に当事者を中心に置いた包括的支援体制
- ・小学校区等の地域の実情に応じた単位で人と人との「つながり」を実感できる地域づくり

(4)孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する

①孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動へのきめ細かな支援

②NPO等との対話の推進

③連携の基盤となるプラットフォームの形成支援

④行政における孤独・孤立対策の推進体制の整備